

応用理学部会第2回研修会報告

平成15年2月20日に平成15年度第2回研修会を実施しました。
その内容を報告します。

主催：応用理学部会

共催：農業部会，環境・衛生・水道部会

1.日時 平成16年2月20日 14:30～17:30

2.場所 イズミティ21 2F会議室

3.内容 土壌・地下水汚染の技術的課題と現状

－地盤環境問題における技術士の役割－

基調講演 土壌・地下水問題の現状と課題

東北大学大学院環境学科 千田 侑 教授

事例報告

(1) 石油系地下水汚染の調査と修復

－扇状地で発生した重油漏出事故の対策－

谷藤允彦（応用理学）

(2) 強酸性土の中和無害化処理

－岩堂沢ダム資材運搬道路建設における発生残土の例－

長沼満富（農業）

(3) 土壌・地下水汚染サイトにおける発生残土の例

－工場跡地におけるVOC汚染・ガソリンスタンドにおける石油系
汚染・廃棄物処理場－

羽竜忠男（応用理学）

コーディネーター：守屋副部会長

受講者 90名

会場は定員 60名のところ予想外に受講者が来場し、後ろにイス席を追加したが、来場者がかうじてイスにすわれるほどの盛会であった。

基調講演として千田教授より土壌・地下水汚染の基礎と修復技術の要点のわかりやすい解説があった。特に恒久的な対策技術ではそれぞれの方法の利点（特徴）をうまく活かしていくつかの浄化法を組み合わせる用いることがよいとしている。また、植物による浄化としてバイオマスの利用技術を上げていることが注目される。

事例報告として（1）は扇状地における重油汚染と回収について詳しく報告され、汚染状況の確認と回収、汚染土壌の除去、モニタリング井戸による処理の確認について説明されている。

汚染の解析にあたって、ボーリングマシンや工具、採水ポンプなどの油の付着によるも注意をしている点に興味をひいた。

（2）の報告はダム現場の道路基礎に発生した強酸性土の処理についてであった。

フライアッシュ(石炭灰)を混ぜて無害化処理をおこなう検討過程および施工機械に興味をひいた。

(3) は土壤汚染サイトにおける物理探査の例の報告であった。

汚染物質による地盤物性の変化を測定するのであるから測定対象によって探査法が違ってくる。主に利用される探査法として、電探、磁探、弾性波、地下レーダーなどを挙げられた。

課題としては汚染物質の土壤・地下水との生物化学的变化にどう対応していくかが考慮される点を挙げている。

講演終了後、同会場のレストランにおいて講演者、来場者、会場係の交流会が開かれ、これも盛会であった。

中村 記



研修会場風景



懇親会